

札幌 市民防災

第19号

平成30年12月
札幌市民防災団体連合会

発行責任者 田畑 隆二

平成30年度

札幌市民防災団体連合会 定期総会

平成30年7月18日30年度の定期総会札幌すみれホテルにおいて、会員、団体代表者のほかご来賓として札幌市から危機管理対策室、室長中塚宏隆様、中出昭彦部長様はじめ多くの皆様のご出席を戴き、平成30年度定期総会が開催されました。

田畑会長の挨拶に引き続き中塚室長様より祝辞を戴き、議長選出後29年度の事業報告、決算、30年度の事業計画、予算、役員選出など全会一致で採択されました。

総会では会費未納会員、避難所でのペットの対応について等活発な意見が出されました。又会とし未加入団体に対し活発なピーアールの必要性についても話しあわれました。

総会終了後、中出部長様の乾杯にもとづいて情報交換され自己紹介、町内会活動について普段聞く事の出来ない活動内容をお聞きすることが出来ました。今回は少人数の出席者でしたが今後皆様おさそいの上多くの方にご参加して頂きたいと思えます。



災害に対する備えの大切さ(胆振東部地震に思う)

札幌市民防災団体連合会 会長 田畑 隆二

会員の皆様におかれましては、日頃より地域の防災活動にご活躍され大変ご苦労さまです。

近年は世界的にも大きな自然災害多く発生し、特に日本では西日本豪雨災害等大きな風水害の被害が発生しております。北海道でも9月5日の大型台風被害や9月6日の胆振東部地震による大きな被害が発生し、「ブラックアウト」による全道一斉の停電など今まで経験の無い状況となりました。

あらためて今回の地震災害で被害に遭われた皆様に、心からお見舞申し上げます。

ニュース等でご存知のように各地で、食料品やガソリンなどの買い物に、又、携帯電話の充電の為長蛇の列が出来た事に大変衝撃を受けました。

私達の日頃の防災活動の中で、災害に備えて家庭内での備蓄品の大切さ等、各地域で実施している「DIG」で学んで来たことが、いざと言う時にはまだまだ充分に対応出来ない事が実証された思いです。

今回の地震災害で、改めて平時からの災害に対する心構えの大切さや、地域全体での防災対策への活動が重要と思われまます。

当会も、胆振東部地震発生における各地での取り組み情報を収集し、会員皆様に広報紙等で提供し今後の活動の参考になる様進めていきたいと思っております。

これからも、会員各位が地域での「安全・安心のまちづくり」の一助と成ります様活動して参ります。更なるご協力をお願い致します。



北海道胆振東部地震における札幌市の対応状況について

札幌市危機管理対策室長 中塚 宏 隆

札幌市民防災団体連合会の皆さまには、日頃から地域の防災活動に先進的に取り組まれており、その取組の全市への広がりにご尽力をいただいておりますとともに、札幌市の防災行政にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本年9月6日午前3時7分に発生した「平成30年北海道胆振東部地震」では、札幌市内でも最大震度6弱を記録し、大規模な停電や断水、道路の陥没などの被害が発生いたしました。この地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災された方々に對し、心よりお見舞いを申し上げます。

今回の地震では、特に停電が市内全域に及び、復旧までに24時間以上を要した地域が多く、皆様方におかれましても、何かと不自由な生活を強いられたかと思えます。

札幌市では地震発生後、直ちに災害対策本部を立ち上げ、被害状況の把握に努め、早い段階で300カ所の避難所を開設するとともに、市民への物資や水の供給、併せて、医療機関やライフライン施設の電源の確保に取り組みました。

地震発生から3日目の9月8日には、市内全戸で電気が回復したほか、水道や交通機関など各ライフラインもほぼ復旧し、多くの方々が元の生活を取り戻すことが出来ました。

その後は、罹災証明の申請受付・発行など被災者への具体的な支援が始まるとともに、「被災者支援室」を新たに設置し、生活支援制度に関する情報提供や総合相談窓口の開設などを実施しました。特に被害の大きかった清田区里塚地区では、液状化によって多数の家屋の倒壊被害が発生したため、1日も早く日常生活を取り戻せるように「清田区里塚地区市街地復旧推進室」を設置し、復旧に向けた取組も始まりました。

地震から間もなく3カ月が経過したところですが、現在、復旧・復興に向けた取り組みを継続して進めるとともに、これと並行して地震対応にかかる検証作業を行っております。特に今回の停電では、被害状況の収集や避難所の運営、観光客への対応等、様々な課題が浮かび上がったため、これらの課題を集約し、改善策を検討してまいります。検証結果は、年度内に開催する札幌市防災会議において報告し、札幌市地域防災計画や災害対策本部の運営体制の見直しを図り、災害に強い札幌市を目指してまいりたいと考えております。なお、早期に対応可能な課題については順次取り組みを行った上で、改善を図っているところであります。

今回の地震においては、情報伝達が困難な中でも、地域の皆さまが助け合い、協力し合い対応した例も多く伺っております。改めて、自助・共助の取組の大切さを痛感したところであり、札幌市民防災団体連合会の皆様の日頃の活動を心強く思っていたところです。

会員の皆様におかれましても今回の地震を踏まえて、家庭での困りごとや地域での課題などが浮かび上がったことと存じます。これらの教訓を生かし、今後も、いつ何時発生するかわからない災害に備え、地域での防災力の向上を図っていただけたら幸いです。

最後になりますが、札幌市民防災団体連合会におかれましては、今後益々のご発展と、会員皆様のご健勝、ご活躍を心からご祈念申し上げますとともに、引き続き札幌市の防災行政に特段のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



中学校避難所開設支援を

西岡八幡町内会 会長 沼田 泰 昌

北海道胆振東部地震では、町内会のエリアにある西岡北中学校が避難所に指定され、町内会役員が避難所運営の支援を行いました。9月6日の朝に西岡北中学校の校長先生から町内会の役員に中学校が避難所として開設されることになったと連絡があり、中学校に駆け付けたところすでに避難者が一名来ていました。避難所開設の段階で本来いるはずの市役所職員はまだ来ておらず避難所としてはなにも準備できていない状況でした。そこでHUG（避難所運営ゲーム）の研修を受けた経験を活かし、まずは避難所の表示を玄関に貼るところからはじめ、受付の設置、避難場所である体育館へ椅子の配置、唯一情報源となる乾電池式ラジオの設置を行いました。開設時は停電しており、中学校はポンプが動かないため水が出ず、中学校の貯水タンクからバケツで直接汲んだり、近くの公園からポリタンクで水を汲んでトイレ用に設置したりしました。市役所の職員が昼頃に到着したときには避難所の体制はほぼ整っていました。職員は来ましたが札幌市からは、何も情報が得られず、またこの先の方針もルールも示されず自分たちで運営を進めていかなければならない状況でした。西岡北中学校が避難所となった9月6日から8日までの間、町内会から役員10名が交替で避難所に詰め、避難所の運営にあたりました。災害時には自助、共助、公助と言われますが今回の避難所支援を通して、公助があてにならないことを知り、自助・共助の大切さを痛感することとなりました。避難所に来た人で多かったのは携帯電話やスマートホンの充電に来るいわゆる携帯難民です。停電中は避難所の玄関前に停めた自動車のバッテリーから充電を行い、その日の夕方に停

電が回復したあとは、さらに多くの人々が来て避難所のコンセントから充電を行っていきました。避難所の宿泊には若い学生が多数来て、そのほか車椅子の方、乳幼児を連れた方など、この晩は40名程度の宿泊者がいました。避難者には備蓄品であった毛布を配り、中学校の体育設備のマットを敷いて休んでもらうようにしていました。西岡八幡町内会は平成25年から災害時避難事業に取り組んでおり、要配慮者と支援者の顔合せ会を西岡北中学校の格技室を借りて毎年行っております。その関係で中学校さんとは、もしここが避難所になることがあれば町内会でお手伝いしますとのお話をしていました。今回、避難所に来たのは近隣の方ばかりで町内会員が避難所のお世話になることはありませんでしたが、今後大きな災害が来た時のための大きな経験になったと考えています。



厚真を震源地とする震度7の地震発生!

西岡さくら町内会 会長 山口 明
自主防犯会 本部長

- ・台風21号が過ぎ去った翌6日未明午前3時8分強い地震が発生豊平区では震度5弱とその直後停電にみまわれました
- ・地震発生直後に町内会の自主防災組織にて町内の見回りを実施し確認された被害はないと判断しました
- ・しかし停電が長期化との情報で非常電源を供給する必要があると判断し町内会が保有する防災機材の発電機2台を使用し町内会館で携帯電話の充電を開始しました
- ・広報車を出し放送で案内6日7日と二日間開設し延べ一千名近い人が利用しました
※利用者の方も積極的にご協力頂きありがとうございました

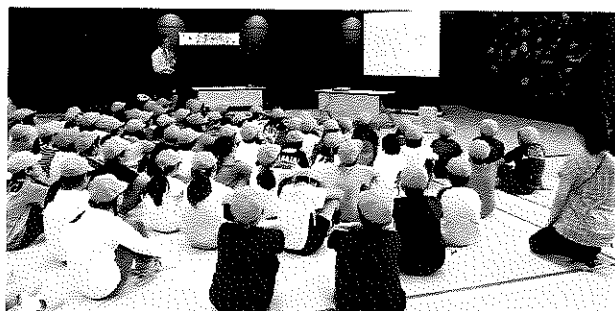
平成30年度「札幌市防災訓練」が手稲区9月3日 北海道科学大学グラウンドにて開催

①何故消防署では車庫のシャッターをあけているのか

②ペットの避難所での対応 ③災害時のお薬手帳の必要性を外国人も多く参加されておりました。

緊急物資輸送車、人が車にはさまれられなくなったとの救出実験。ドクターヘリで救出には子供たちも参加。

避難設営、運営、住民同士の連携の大切さなど、沢山学ぶ場の取材でした。



マグニチュード(M)7の大地震から学ぶべきこと。

中央区 南円山緑ヶ丘町内会 会長 矢萩 弘志

「天災は忘れた頃にやって来る」との諺は何回も耳にしていたが、今回は忘れた頃どころか予想以上に速く襲ってきたとの思いである。今よりわずか前の7年間で東日本大震災の他3件の地震が道内外で連続発生しており、更に、昨年7月には今回の内陸震源地近くで震度7弱の地震を観測したとの報道がされていたからである。

6日未明に胆振地方東部で発生した震度7という未曾有の大地震、その結果ブラックアウトと称する札幌を含む全道一斉停電（我が家で電気が復旧したのは翌日朝の5時30分）、停電による随所での暖水（私のマンションも同じ）や災害情報等の把握不能、更には全交通インフラの運休に加え、当面の食料品や水、電池の買い求めに立ち並ぶ市民の姿等生活環境は劇的に一変した。

更に、清田区内等では地盤の液状化による被害で、多くの方々が生活基盤を失われた。もしも、このような事態が厳冬期であったら、暖房すら確保できない中で悲惨な結果が発生したであろう。

当町内会では、災害に備えてのいわゆる自助（最小限の非常食の確保等）努力や防災訓練への参加について日頃から啓発して来た。しかし札幌は災害の無い安全地帯との思いが依然として見受けられたが、この大地震を契機に災害の危機管理に対する固定観念からの脱却を切望したい。

また、毎年各地域で行われる災害訓練内容の見直し（例～バケツ送りの消火訓練の検討）や、厳冬期にも着目した新たな創意工夫が必要と考える。

私たちは、今回の大地震での苦労話を語るだけではなく、今後の災害に備え更なる自助努力充実等の出発点とすべきである。

平成30年前期報告

平成30年度地区防災計画セミナー

平成30年7月14日（土）ポールスター札幌にて札幌市危機管理対策室主催による「平成30年度地区防災計画セミナー」が開かれ、約130人の参加者。多くの事を学ぶ講演でした。



セミナー研修会

平成30年度石狩川水系豊平川総合水防演習

平成30年6月17日（日）大雨による豊平川の氾濫を想定し、開発局と道、流域の札幌市、江別市、石狩市、当別町による「豊平川総合水防演習」が札幌市東区の豊平川河川敷で行われました。

道内の国管理河川で毎年行われる大規模訓練で、札幌実施は1985年以来。高橋知事、秋元克広札幌市長、流域市町の職員や消防、水防団員、陸上自衛隊の隊員約5,900名参加しました。台風で豊平川の水位が上昇し、住宅浸水や堤防決壊などの被害が出たと想定した訓練で、地元の東雁来連合町内会や、小中学生も参加し土のうを住宅の周囲に積む訓練を行い大変有意義な日でした。



ワークショップ

平成30年度北海道胆振東部地震の 振り返りワークショップ開催

平成30年11月27日（火）札幌文化芸術交流センターにて、今回の北海道胆振東部地震での被災体験をモデル地区の皆様で共有し、今後の地区防災計画に作成に生かすことを目的に、国立研究開発法人防災科学技術研究所（茨城県）と札幌市と共催で行われました。

市内の各町内会が取った対応や課題について、町内会役員、町内会が出席して行われました。

編 集 後 記

今年は例年になく台風、地震発生が多く特に9月6日早朝の胆振東部地震では大変多くの方々が被災にあわれ現在も不自由な生活を送られています。心よりお見舞と一日も早い復興を祈っております。これからは寒さも一段ときびしく成りますのでお身体には十分気をつけて頂きたいと思っております。

今回広報発行に関しては地震情報関連記載のため遅くなりましたことお詫び申し上げます。

会員の皆様の近況など寄稿お寄せ下さい。

広報部長 渡辺 恵美子 FAX・TEL 011-851-9583 番

印刷所 北晃社 斎加印刷所
札幌市西区八軒1条東5丁目
電話 011(631)1271